

600字物語007

千年桜01

魔王編

エリー

魔王は言った。

「甘い魂（もの）が食べたい」

彼の喜びは人間の願いを叶えること。そのためなら悪いこともする。

美しい彼は誰からも愛された。

しかし、彼にはもう一つの顔がある。

ある日、愛する女が知らない男と笑いあう姿を見て、嫉妬した魔王は醜い姿に変身する。

女は甲高い悲鳴をあげて後ずさりする。

「美しいわたしでなければ愛せないのか。嫉妬に狂った醜いわたしを受け入れてはくれないのか。わたしから目をそらしたお前がこんな姿に変えたというのに」

醜い姿の魔王が口づけを求めようとすると女は恐怖のあまり死んだ。

彼は、泣いた。

そして、醜い本性を隠している限り、本当に愛されることはないと悟った。

それでも愛を諦められず、信じたくて、愛するものの守護者になった。

片思いの苦しい恋を見ると、相手の心を操って応援した。そして、愛に満たされた甘い魂を食べた。魂を食べられた人間は死ぬ。でも魔王は悲しくない。むしろ、一番美しい時に終わらせてあげたことに感謝してほしいと思う。

しかし、どんなに偽りの恋の魂を食べても心が満たされない。もっと深く大きな愛を食べたいと願う。そこで、神が慰めに作った緑の聖域に目をつけた。